フィナンシャル・ディレクター業務執行役員

第回。ファイナンスにとってのクラウド

所有から利用へ

考えてみたい。

「所有から利用へ」という変化は、不動産を例にとると分かりやすいだろう。「外部施設が利用できる場合は自社で不動産は持たない」「賃借により初期投資を抑える」というのは、クラウドのイメージに近い。実際に「平成二五年版情報通信は書(総務省)」では、クラウド導入の理由のトップは、「資産、保守体制を社内に持つ必要がないから」「初期導入コストが安価だったから」となっから」「初期導入コストが安価だったから」となっから」「初期導入コストが安価だったから」となっから」「初期導入コストが安価だったから」となっから」「初期導入コストが安価だったから」となった。

「運用モデルの委託による効率化」「グローバル標行の理由として挙げているのは、「BCP対策」また、弊社の調査で、経営トップがクラウド移

まっていくはずである。 関心事であり、クラウド移行において、CFOや関心事であり、クラウド移行において、CFOや関心事であり、クラウド移行において、CFOや

も、いずれ避けて通れない道である。もすでにクラウドを導入済だったというケースもあでにクラウドを導入済だったというケースもある。現在は自社にクラウドを真及済だったというケースもある。現在は自社にクラウドを 日 収 した先が、す

オンプレミスとクラウドの比較

オンプレミスとクラウドの比較を図にまとめなのではないか」という誤解もあるようだが、そに「クラウド」というとパブリッククラウドはオンプレミスに近いため、一般に「クラウド」というとパブリッククラウドだけに「クラウド」というとパブリッククラウドだけを指すことも多い。なお、「パブリッククラウド→パというからには、他の利用者のデータも丸見えというからには、他の利用者のデータも丸見えなのではないか」という誤解もあるようだが、そなのではないか」という誤解もあるようだが、そなのではないか」という誤解もあるようだが、そなのではないか」という誤解もあるようだが、そなのではないか」という誤解もあるようだが、そなのではないか」という誤解もあるようだが、それのではないか」という誤解もあるようだが、それのではないか」という誤解もあるようだが、それのではないか」という誤解もあるようだが、それのではないからいには、それのではないか。

のようなことはないのでご安心を。

図では、役員や社員の交通手段に違いを例えてみた。オンプレミスは「セキュリティ確保のため、役員が使用する乗用車は自社所有する」とめ、役員が使用する乗用車は自社所有する」とめ、役員が使用する乗用車は自社所有する」との社員旅行の際にバスをレンタル」「日々の営業の社員旅行の際にバスをレンタル」「日々の営業の社員がである。

クラウド利用のメリット

するのだろうか?では、クラウドは財務諸表にどのように影響

理にかかる労力の必要性も低くなるだろう。 によるスリム化のメリットは大きい。さらに、 「固定資産管理が不要となる」という点も管理部
一世・実査、のような見えないコストは意外と
管理や実査、のような見えないコストは意外と
大きいのではないか。また、クラウドの課金は
大きいのではないか。また、クラウドの課金は
本ず、バランスシートへの影響だが、クラウド

が安くなるかどうかはケースバイケースである。次に、損益計算書の視点だが、トータルコスト

これまで固定費だったものが、クラウドによって変動費用となるため、「時間帯や季節によって変動費用となるため、「時間帯や季節によってクラウドが有利となる。これは、伝統的なオンクラウドが有利となる。これは、伝統的なオンプレミスでは処理するデータの「ピーク」に合わせた性能のハードウェアが必要となり、ピーク以外の時間帯ではリソースが遊んでしまうからである。そして、予想されるデータ量のために必要なIT要件を見積もるための作業(サイジングという)の負担は想像以上に重く、この点でもクラウドは有利である。ただし、長期かつ安定的に稼働することが見込まれるケースでは、クラウドのほうが不利になる。

最後に、キャッシュフローの面では、「キャッシュフローの平準化」「初期投資負担の減少」がすると投資計画に融通をきかせることは難しくなる。損益計算書もあわせ、「今期は好調な決算が見込まれるので投資を前倒しで実行する(あるいはその反対)」ということはクラウドでは難しくなるはずである。

ミスの組み合わせを最適化し、機敏に調整を加いまる。一般ではいうことではない。当面は、ほとんどの企業にとって、「クラウドだけ」または「オンプルミスだけ」という二者択一ではなく、「両者のルミスだけ」という二者択一ではなく、「両者のおみ合わせ」が主流となる。言い換えると、外部環境と自社戦略に応じて、クラウドとオンプレスの組み合わせを最適化し、機敏に調整を加います。

がない」という回答には、食わず嫌いのリスクを の投資の視点から検討して欲しい。 のではないか。クラウドに限らず、ITを攻め 答では、そのような積極的な視点が欠けている 張性」でほぼ変わらない。「必要がない」という回 感じる。米国のクラウド調査をまめにチェック 日本企業の側面がうかがわれる。そして、「必要 ことである。セキュリティについては保守的な を欧米のリサーチで筆者は見たことがない)、そ い理由」という項目があること(そのような項目 とのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しな る傾向にあるものの、利用率の差はまだ一・七倍 しているが、トップにくる理由は「機動性」と「拡 どセキュリティに不安がある」が挙げられている してその上位に「必要がない」と「情報漏えいな (総務省)」には日米比較が載っている。 年々縮ま 最後に、前述の「平成二五年版情報通信白書

資料

平成二五年版情報通信白書(総務省)

http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h25. html/nc244130.html

http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h25. html/nc244140.html

http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h25. html/nc244210.html い理由」という項目があること (そのような項目とのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。興味深いのは、「クラウドを導入しなとのこと。

オンプレミスとクラウドの比較

● カングレベスとグググトVグル+X				
	オンプレミス	クラウド		
		プライベートクラウド	パブリッククラウド	
			laaS, PaaS	SaaS
例えると…	運転手付乗用車を 自社所有	大型バスを所有	大型バスを時間で レンタル	公共のバス・ タクシーを利用
システム保有	利用者		サービスプロバイダー	
データ管理	利用者が管理		プロバイダーにデータ管理を委託	
データセンター	自社管理		サービスプロバイダー指定のもの	
カスタマイズ	高		中	低
セキュリティ	自社基準		プロバイダー基準+利用者の運用	
初期投資とBSインパクト	大		小	ほぼゼロ
コスト	ハードウェア、ソフトウェアなど先行投資が必要		従量制課金(ユーザー数やデータ量による)	